

一休さんと
玉露のまち
京田辺市

現代の一休さん その言葉 をたずねて

今でも人々に広く

親しまれている一休禅師。

その言葉は癒しが求められる

現代にこそ いきいきと響きます。

一休さんがすごした京田辺のまちで

そのところに触れてみませんか。

酬恩庵 一休寺

酬恩庵一休寺
田辺住職

昨日は済んだ
明日は知らん
今日としかりまきよ



【酬恩庵 一休寺】

京田辺市新里ノ内102

TEL. 0774-62-0193

拝観料：500円

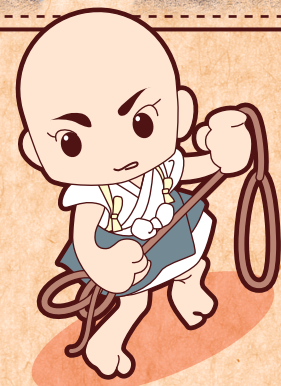
※法話をご希望の方は
事前にお問合せ下さい。
(予約は10名より承ります)

<http://ns.ikkyuji.org/>

民衆の中に生きたその人生、その言葉。

一休さんは15世紀の中頃を生きました。後小松天皇の皇子であつたと言われ、禅師という称号を持つ高僧でした。しかし、厳しい禅宗の修行の末悟りを開き、その教えを持つて宗派や身分に関係なく、広く民衆に語りかけました。

物像をご存知でしょうか？



一休さんの生涯と、その人
では皆さんは、本当の
とんち話でおなじみの一休
さん。誰もが一度は絵本
やアニメでその幼少の頃
の機知に富んだ活躍に胸
躍らせたことでしょう。

本当の
「一休さんって
どんな人？」

時は室町時代。世の中には南北朝の混乱が色濃く残り、多くの僧たちは幕府と結びつき立身出世に明け暮れていました。その中であつて一休さんは、芸能や文学を庇護する一方で、権力の腐敗を痛烈に批判しました。そして自分は一簣一笠の姿で教えを説いてまわり、民衆を広めたのです。
その人生の最後を過ごしたのが、京田辺市の酬恩庵です。この地で人々に救いと生きていくための知恵を授けた一休さんは、多くの人々に愛され、厳しくあたたかみのある言葉は現代の私たちの忙しい毎日にも活力を与えてくれるのです。
一休寺には今も一休さんのお墓があり、直筆の書などを見学することも出来ます。